

剣淵町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

剣淵町では、剣淵市街地（JR剣淵駅）と剣淵温泉レークサイド桜岡間、市街地温泉連絡線（通称・温泉バス、1路線）は、利用がしやすく長期的・安定的な運行維持を図るため、通年運行、安価な運賃での運行とし、特に主な利用者の70歳以上の町民は無料としている。

このことに加え、利用者の意見・要望等をこまめに聞き取りすることで、誰にでも利用しやすい環境を整え、バス利用者の増に努めている。

この事業は、主要幹線交通への連絡も目的としており、これからもJR宗谷本線及び道北バス名寄線と地域内フィーダー系統とが一体となった運行体系を継続していく。また、スクールバスと一般混乗を行っている混乗型バス（3路線）の運行を継続していくことで、引き続き利用者に向けて、剣淵町の公共交通体系を維持しつつ、地域住民の足となる交通手段の存続に向けて利用の促進を図る。

生活交通確保維持改善計画の目標

- 市街地温泉連絡線
令和7年度目標値 5,400人実績5,948人収支率2.0%公的資金投入額14,200円/人

令和7年度事業概要

- 市街地温泉連絡バス運行事業（市街地温泉連絡線）
 - ・運送者 剣淵町
 - ・運行系統 市街地温泉連絡線
 - 起点 JR剣淵駅（剣淵町仲町2番地3）
 - 終点 剣淵温泉レークサイド桜岡（剣淵町東町5141番地）
 - ・運行期間 継続運行（令和5年10月1日～令和8年9月30日 3年間）
 - ・運行日 通年運行
 - ・運行回数 1日5回（ただし、金曜日のみ2回）、年間運行実績 1,654回
 - ・運行距離 8.1km
 - ・運賃 全区間乗車1回につき 大人50円（小人30円）
なお、70歳以上の町民は無料

地域公共交通の現況

- 鉄道：JR北海道（株）〔宗谷本線〕
- 路線バス：道北バス（株）〔名寄線〕
- 都市間バス：道北バス（株）及び北海道中央バ（株）〔名寄線〕
- ハイヤー：（株）士別ハイヤー
- 町有バス：市街地温泉連絡線バス
- 町有バス：一般混乗型路線バス
- デマンド型：乗合自動車（士別ハイヤーへの委託）

協議会開催状況

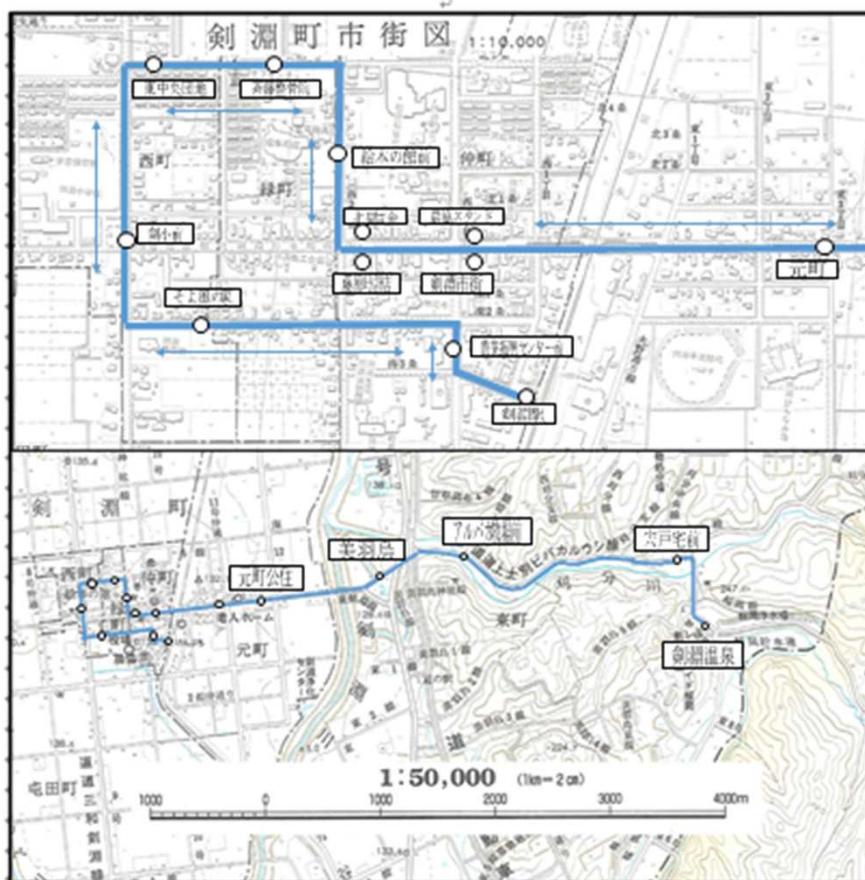
- 令和6年12月3日〔書面会議〕
令和6年度 第2回剣淵町地域公共交通活性化協議会の会議
議題・令和6年度事業評価案について
- 令和7年3月6日〔書面会議〕
令和6年度 第3回剣淵町地域公共交通活性化協議会の会議
議題・剣淵町地域公共交通活性化協議会の財務規定について
- 令和7年6月17日〔書面会議〕
令和7年度 第1回剣淵町地域公共交通活性化協議会の会議
議題・剣淵町地域公共交通活性化協議会の財務規定について
・剣淵町地域公共交通活性化協議会の令和7年度歳入歳出案について
・監事の指名について
・剣淵町地域内フィーダー確保維持計画（令和8補助年度地域公共交通計画認定申請）案について
- 令和8年1月5日〔書面会議〕
令和7年度 第2回剣淵町地域公共交通活性化協議会の会議
議題・令和7年度事業評価案について

令和7年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- 公共交通空白地の運送として、交通弱者と言われる高齢者、障がい者等の利便性を考慮しつつ、市街地温泉連絡線を運行する。
- 市街地温泉連絡線及びスクールバスと一般混乗を行っている混乗型バスについては、鉄道（JR剣淵駅）、路線バス（剣淵市街）との連絡に配慮した運行時刻とする。
- 市街地温泉連絡線の主な利用者は 温泉施設の日帰り入浴の高齢者で、特に70歳を超える町民の利用である。なお、料金については、70歳を超える町民は無料とする。

2) 運行系統



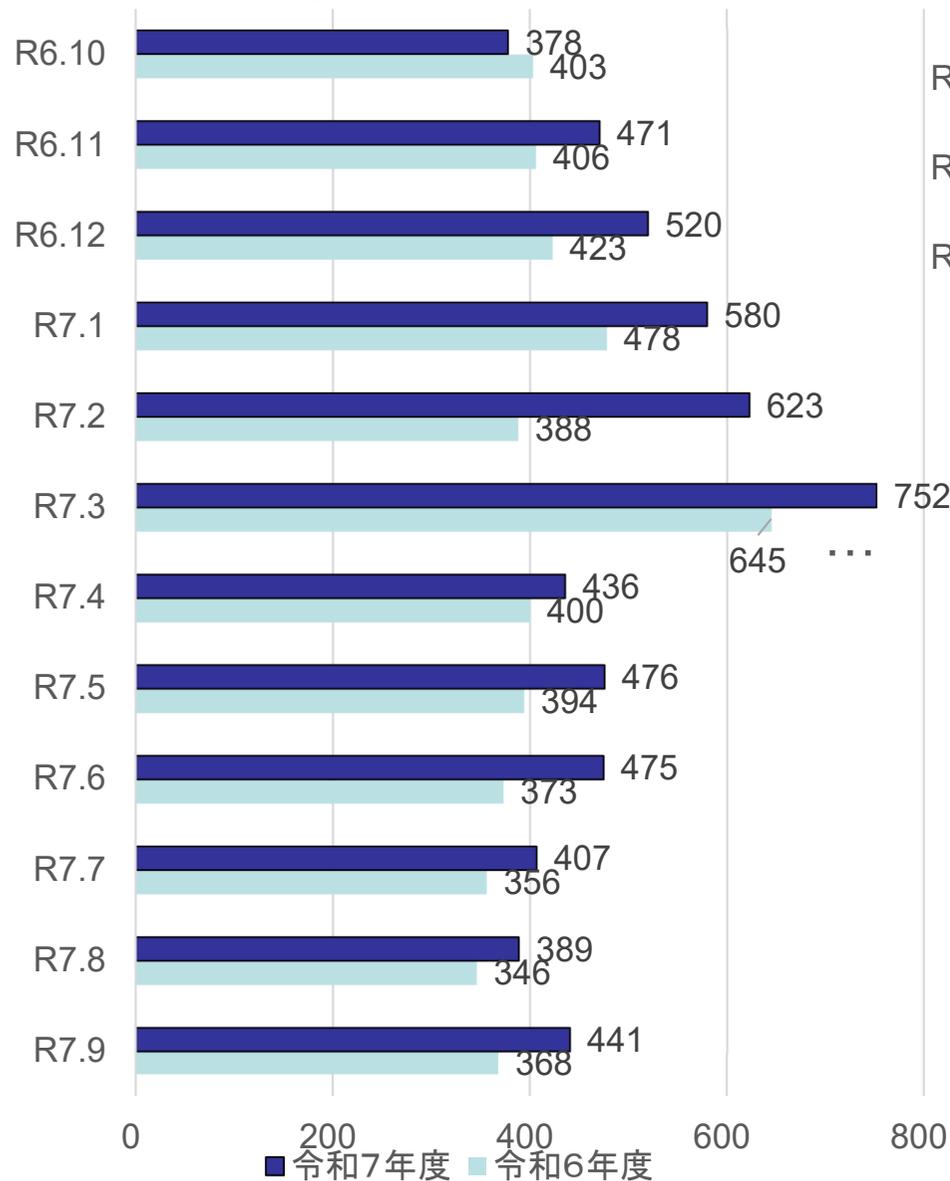
【凡 例】

- 市街地温泉連絡線バス
- 既存路線 —————

3) 利用実績 (人)

令和7年度 5,948人 令和6年度 4,980人

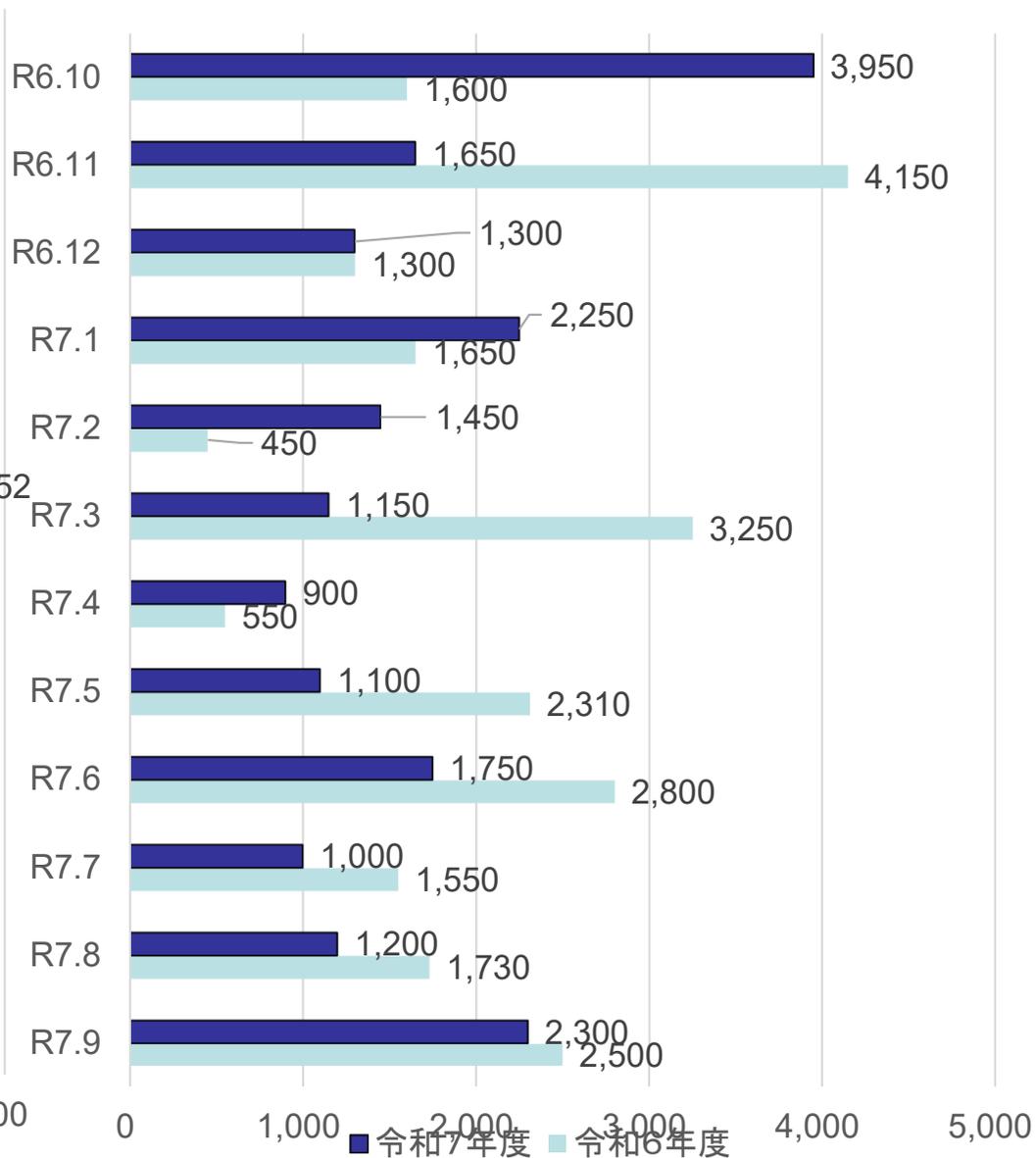
市街地温泉連絡線



4) 収入実績 (円)

令和7年度 20,000円 令和6年度 23,840円

市街地温泉連絡線



5) 事業実施の適切性

○剣淵町地域公共交通計画に位置づけの継続事業の実施とともに、新規事業の一部は調整段階又は今後検討として一部実施を図る。

7) 事業の今後の改善点

○主たる利用者は70歳を超える町民で、無料運賃の対象者である。これにより運賃収入は僅かとなるものの、当該対象者への福祉的支援からのことである。しかしながら、今後も運行に係る経費は増すことが見込まれ、剣淵町地域公共交通計画に掲げる収支率を高められるように、運賃の引上げ改定の検討、各種事業等を効果的に進めるよう努める。

6) 目標・効果達成状況

- 目標値
 - ・利用者 5,400人
 - ・収支率 2.0%
 - ・公的資金投入額 14,200円/人
- 実績値
 - ・利用者 5,948人
 - ・収支率 0.15%
 - ・公的資金投入額 4,387円/人

新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日から感染症分類・5類に移行し、普段の日常生活、社会活動に戻るものの、コロナ禍前の利用状況（令和元年度7,441人）には至ってはいない。加えて、当該路線に連絡の剣淵温泉レークサイド桜岡においては、日帰り入浴及び宿泊利用の減少が見られ、当該施設利用との関連性からも市街地温泉連絡線の利用に影響があるものと推測できる。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・収支率の目標を達成することができなかったが、今後も地域公共交通計画に基づき、利用促進策の取組を継続することを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率の改善に対する取組についても引き続きご検討いただきたい。